

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 25 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23330260

研究課題名(和文) キャリア教育としての教員養成カリキュラムの開発：初等教育～高等教育への接続・展開

研究課題名(英文) Development of a Teacher Training Curriculum to Provide Career Education:
Connection/Expansion from Primary to Higher Education

研究代表者

河崎 智恵 (KAWASAKI, Tomoe)

奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：50346300

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ライフキャリアの視点より、初等教育から高等教育への「接続」を視野に入れた、キャリア教育の概念モデルを構築した。概念モデルに基づき、奈良教育大学教職大学院カリキュラムを見直し、新たな教育プログラムを開発・実践し、教育成果を検証した。それらの知見をもとに、早稲田大学教職大学院において教職大学院から修了後におけるキャリア形成の調査分析を行うとともに、特別支援教育の視点からも教職キャリア形成について検討し、「学びつづける教員」のためのキャリア教育の在り方を探究した。

研究成果の概要(英文)：This study started by constructing a conceptual model for career education from a life career perspective with “connection” from primary to higher education in mind. We used this conceptual model to revise the curriculum of Nara University of Education’s School of Professional Development in Education, developing and implementing new educational programs, and verifying their learning outcomes. Based on those findings, we researched the form career education should take to cultivate teachers who continue to learn. We surveyed and analyzed career development among students who had completed courses at Waseda University Graduate School of Teacher Education, and also investigated teaching career development from the perspective of special needs education.

研究分野：キャリア教育

キーワード：キャリア教育 教員養成 カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

生涯において「学び続ける教員」であるためには、職業のみならず、Super(1980)の示すような「ライフキャリア」の視点、すなわち、生涯における多様な人生役割においてキャリアを捉える視点が不可欠である。既に、小学校から大学・大学院に至るまで、キャリア教育・職業教育が推進され、様々な取組が拡充されつつある。教員養成においてもその方向性は顕著で、高度な専門的能力の必要性から、教職大学院の新設や、高等学校の教育コースの設置などがすすめられてきた。しかし、これらの取組は、必ずしも生涯のキャリア発達をふまえたものとは言い難く、キャリア教育から職業教育への接続・展開が課題である。

2. 研究の目的

本研究では、これまでの先行研究、教育実践の成果をふまえて、初等教育から高等教育への「接続」を視野に入れ、ライフキャリアの視点から教職大学院におけるキャリア教育、および大学院修了後の教師のキャリア形成のあり方について検討する。

3. 研究の方法

1)文献研究・実地調査により、教職大学院におけるキャリア教育において育成されるべき能力領域を明確化し、概念モデルを作成する。2)概念モデルに基づき、奈良教育大学教職大学院カリキュラムの見直し、改善を図るとともに、新たな教育プログラムおよび教材を開発する。教育実践の成果を質的・量的調査により検討し、今後の課題を明らかにする。3)それらの知見をもとに教職大学院から修了後におけるキャリア形成の在り方、特別支援教育におけるキャリア教育の課題を検討し、統合的なキャリア形成をサポートする組織として「キャリア・ピア・サポート」システムを確立する。

4. 研究成果

(1)接続的キャリア教育モデルの開発

2011年には、答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」において、就学前の幼児期から高等教育までを見通したキャリア教育・職業教育の在りかたが示された。そこでは、「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素として、「基礎的・基本的な知識・技能」「基礎的・汎用的能力」「論理的思考力・創造力」「意欲・態度及び価値観」「専門的な知識・技能」があげられている。

その中でも、特に「基礎的・汎用的能力」は分野や職種に関わらず社会的・職業的自立に向けて基盤となる力とされる。しかし、「基礎的・汎用的能力」が、具体的に職業教育とどのように関係づけられるのか、といった点までは言及されていない。

そこで、ライフキャリアおよび生涯発達に関する先行研究(岡本, 2002 他)をもとに、「個の発達」と「関係性の発達」の側面より、「基礎的・汎用的能力」の各能力領域を基盤としたキャリア教育・職業教育の能力領域の構造化を行った(図1)。

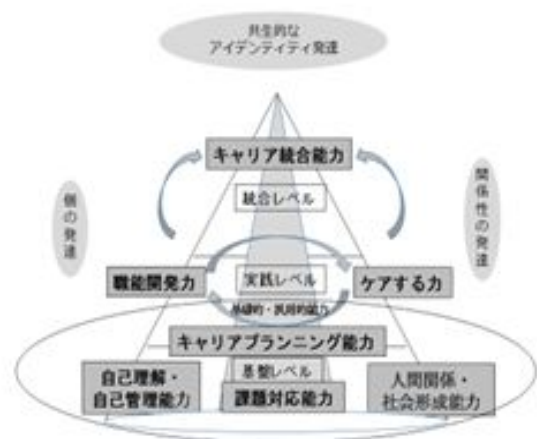


図1 「基礎的・汎用的能力」を基盤としたキャリア教育・職業教育の概念図

このようにライフキャリアの視点よりキャリア教育・職業教育の構造化を行うことにより、「基礎的・汎用的能力」が、「個」と「関係性」の発達の両側面に関わることで明確となり、初等教育から中等教育へのキャリア教育、さらに職業教育への接続の方向性を見出すことができた。

(2) 教職大学院カリキュラム検討と新規プログラムの導入・実践

構築した概念モデルをもとに、奈良教育大学教職大学院のカリキュラムをキャリアの能力領域より見直しを行った。キャリアに関する能力領域とそれぞれの授業との関わりをシラバスに示すとともに、新規プログラム「キャリア・デザインⅠ」「キャリア・デザインⅡ」および教材「Career Pathways (Career Pathways for Professional Development in Education)」を開発し、平成 25 年度入学生より導入・実施した。

また、教職大学院における学びの振り返りを行う「デジタル・ポートフォリオ」上にも、キャリア発達に関わる自己の成長を記録できるようにシステム変更を行った。学校実習において実習校担当教員へのキャリア・インタビューを導入し、全カリキュラムにキャリア発達の視点を取り入れた。さらに、教職大学院生を中心として「キャリア・ピア・サポート」活動を組織化した。

(3) 教育実践の成果と課題：学生のキャリア発達の変容

これらの教育実践を通じた、学生のキャリア発達の变容について明らかにするため、平成 25 年度の奈良教育大学教職大学院生 1 回生 19 名を対象に、年間 4 回(プログラム開始時：4 月上旬、キャリア・デザインⅠ受講後：4 月中旬、学校実践Ⅰ・Ⅱ終了後：7 月中旬、学校実践Ⅲ終了後：11 月下旬)の質問紙調査を実施した。質問紙は、ライフキャリアの能

力・態度に関する尺度(河崎, 2010)を参考に、職能開発にかかわる項目を加えた 21 項目である。各項目は、「大変そう思う」「少し思う」「どちらともいえない」「あまり思わない」「全く思わない」の 5 件法で回答を求めた。各能力領域における調査時期の影響を分析するために、能力領域毎に対象学生内 1 要因分散分析(4 水準)を行った(図 2)。

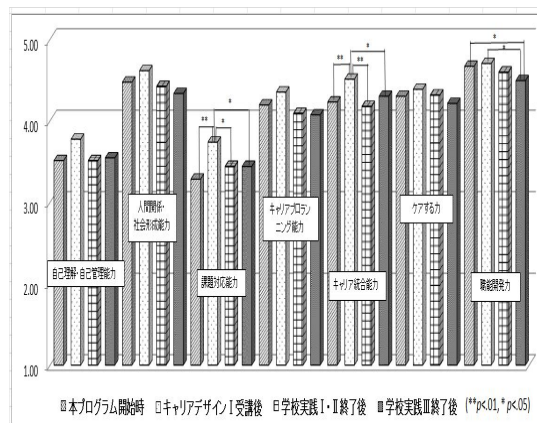


図 2 学生のキャリア発達の変容

調査時期による有意な主効果こそ認められない能力領域もあるが、総じて「キャリア・デザインⅠ」のプログラム実践によって平均値が高くなっていった。その後、学校実践を経て値が低くなっている。これは、現実の学校生活における様々な課題を知り、リアリティチェック(現実直視)を経験したものと思われる。キャリア発達は螺旋的に行われることをふまえると、これらの結果はむしろ望ましいものであると考えられ、教育内容の深化へつなげることが求められる。

また、学生のキャリア発達について質的な変容をみるために、授業「ポートフォリオ」等を通して、自らのキャリアの振り返りを実施した。その結果、個の発達から関係性の発達への意識変容がみられる学生、反対に関係性発達から個の発達へと課題意識が変容している学生、職能開発とキャリア統合とを往還しながら生徒へのキャリア支援へと結ぼうとする現職院生など、キャリア発達のプロセスに個人差が認められた。

これらの結果より、構想したモデルにもとづくキャリア教育実践には、一定の教育的意義が確認された。また、事例数が少なく限定的ではあるが、キャリアに関する各能力領域は、相互に関連しながら螺旋的、統合的に発達していき、最終的には、子ども（児童・生徒）へのキャリア支援へとつながることが示唆された。

(4) 教職大学院から修了後のキャリア形成

教師のキャリア形成理論について検討した上で、早稲田大学大学院教職研究科に在籍した学生が、教員として成長する過程を、修了者の報告をもとに明らかにした。

教職大学院生のキャリア形成(第1局面)

教師のキャリア形成においては様々な考えがあるが、ステフィら(B. E. Steffy et al, 2000)の理論では、教師は、実践を省察し、それを刷新し、成長につなげるライフ・サイクルを繰り返すとし、その教師の成長を6つ局面(フェーズ)で示している。

教職研究科に入学してくる多くの学生は、養成局面である第1局面の教師である。こうした局面の教師がまず教科「キャリア教育の理論と実践」においてキャリア形成の概念を学び専門職としての成長を意識する。本授業では、研修会の企画・運営を経験することで学びを創出する教師としての基盤的な体験を繰り返していく。それは擬似的であるが省察 刷新 成長のモデルの循環的展開を可能にしていく。こうして行われた理論と実践の往還はさらに「教育実践論文演習」として新たな展開を生み出していく。

現職教員学生においても、それぞれの局面から自らの局面を第1局面の学生と連携した活動に身をおくことで省察 刷新 成長のモデルを展開することが可能になり、新たな局面への移行を生み出すことになる。こうした展開は、第1局面のストレートマスターの学生も、多様な局面にある現職教員学生に

おいても、修了後、つまり、それぞれに教職生活を始め、あるいは再開する段階においても継続され局面の移行を実現していく。

修了後の教師としてのキャリア形成(第2局面以降)

第2局面である新任教員においては、正式に採用された専任教員として直面する現場の状況から受ける衝撃は、実習生の check レベルを超え reality shock と表現される。報告者の記述からも reality shock への手立てが教師としての成長を実現した報告が複数認められた。次いで、第3局面の教師には、paradigm shift が求められる。学習意欲がない、生徒指導に問題を抱えているといった状況に直面し、その要因を児童生徒に帰しているパラダイムが突然変容し、要因のベクトルが自分自身に向く瞬間である。ストレートマスターの修了生のキャリア形成は、こうした reality check、reality shock そして paradigm shift との遭遇により生じていた。

一方、現職教員学生はすでに、自らの実践を省察し、成長と変化を生み出すとともに、教師の専門性において最新かつ最良の考えをもつようにしていた。しかし、キャリア形成のあらゆる局面で教師 withdrawal(ひきこもり)の危機に直面しているとされる。教師としてのキャリア形成に重大な支障を生む可能性も指摘され、危機を回避する方策として、修了者を集めた研修会や同窓会による情報交換などが求められる。

(5) 特別支援教育とキャリア形成

障害のある子どもたちの進路については、これまでの多くの課題をかかえ、仕事の間を創り出すことも含めて様々な努力がなされてきた。2009年3月に告示された特別支援学校高等部学習指導要領に「キャリア教育」の文言が明記されたことにより、特別支援教育においても早期からの組織的な取組によるキャリア教育の推進が求められている。

そこで、特別支援教育におけるキャリア教育の在り方と、特別支援教育を担う教師のキャリア形成について、大学、学校、地域との連携により検討を行った。具体的には、特別支援教育におけるキャリア教育を教員養成の一貫に位置づけ、奈良教育大学において、大学と特別支援学校高等部の連携授業を実施した。その上で、高等部生との交流経験(就労支援)を通じた、継続教育も視野にいたれたキャリア教育の在り方を検討した。

また、国内外のユースワーカーのキャリア形成の調査より、教師のキャリア発達において、医療、福祉、司法、社会教育機関等の専門家と協働する力量形成が求められることを明らかにした。

(6)課題

「学び続ける教員」の育成のためには、職業的な力量形成にとどまらず、ライフキャリアの視点より教育活動を展開していくことが不可欠である。すなわち、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連をふまえて、個と関係性発達の両側面より自己の生き方を考え、生涯にわたる教員としてのライフキャリアを統合・再統合していく力の育成が求められる。

今後は、研究成果をもとにプログラムの改善・充実をはかるとともに、児童・生徒へのキャリア支援の充実に向け、学校・大学・教育委員会等による協働的な教育開発・実践が課題と考える。

<引用文献>

- 中央教育審議会答申、今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について、2011。
- 岡本祐子、2002、中年のアイデンティティ危機をキャリア発達に生かす：個としての自分・かわりの中での自分、*Finansurance*, 40, 2002, 15-24.
- Steffy, B. E. et al, *Life Cycle of the Career Teacher*, Corwin, a joint publication with Kappa Delta Pi, 2000.
- Super, D. E., *A lifespan, life space approach to career development*,

Journal of Vocational Behavior, 16, 1980, 282-298.

5. 主な発表論文等

(雑誌論文)(計 10 件)

河崎 智恵, 吉村 雅仁, 中井 隆司, 教職大学院におけるキャリア教育のモデル構想と教育実践：初等・中等・高等教育の接続・展開を視野に入れて、日本教育大学協会「研究年報」, 査読有, 33, 2015, 63-74.

Masahito Yoshimura, Takashi Nakai, Tokuhiko Ikejim, Toshihiro Matsukawa, Makoto Yoshida, Yoshinobu Yamamoto, Wakio Oyanagi, Toshiya Miyashita, Takashi Kasuya, Yasuhide Kawai, Takeshi Kitagawa, Hidefumi Matsui, Takazo Higuchi, *An Example of Teaching Material for Career Education in a Graduate School of Teacher Education*, 奈良教育大学教職大学院研究紀要学校教育実践研究, 査読有, 6, 2014, 71-111.

<http://near.nara-edu.ac.jp/handle/10105/9881>

今西 満子, 川西 光栄子, 玉村 公二彦, 学級経営・生徒指導に活かすティーチャー・トレーニングの試み, 奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要, 23, 査読無, 2014, 219-225.

<http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2014/>

中井 隆司, 河崎 智恵, キャリア教育としての教員養成カリキュラムの現地調査報告, 奈良教育大学教職大学院研究紀要学校教育実践研究, 5, 2013, 77-80.

<http://near.nara-edu.ac.jp/bitstream/10105/9419>

Takao Mimura, Darryl T. Yagi, *Career Counseling in Asian Countries: Historical Development, Current Status, Challenges and Prospects*, *Journal of Asia Pacific Counseling*, 査読有, 3(1), 2013, 9-33.

今西 満子, 岩坂 英巳, 玉村 公二彦, 発達障害傾向のある不登校児童への支援：不登校支援教室の試みを中心に, 奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要, 22, 査読無, 2013, 235-241.

<http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2013/>

池島 徳大, 谷口 義昭, 川畑 恵子, 堂上 禎子, 人間関係を育む開発的指導に関する研究：ピア・サポート活動におけるキャリア発達支援, 奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要, 21, 査読無, 2012, 227-232.

<http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2012/>

in2012/

竹内 和雄, 池島 徳大, 「ナナメの関係」を意識した進路指導: 進路指導に活かすピア・サポート活動, 奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要, 21, 査読無, 2012, 215-220.

<http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2012/>

吉岡 久美, 河崎 智恵, 池島 徳大, 視覚支援学校におけるキャリア教育の授業開発: ソーシャルスキルトレーニングを活用して, 奈良教育大学教職大学院研究紀要学校教育実践研究, 4, 査読有, 2012, 29-38.

<http://hdl.handle.net/10105/8497>

川崎 友絵, 郷間 英世, 玉村 公二彦, 病弱教育における教育と医療の連携に関する研究: 院内学級教師と小児科看護師の認識に焦点を当てて, 奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要(21), 査読無, 2012, 209-214.

<http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2012/>

〔学会発表〕(計 2 件)

Kawasaki Tomoe, Yoshimura Masahito, Nakai Takashi, Integrating of the Career Guidance Program with the Professional Development Curriculum of the Graduate School in Nara University of Education (poster presentation), Career Guidance International Conference, Montpellier, 26, September, 2013.

Takao Mimura, Darryl T. Yagi, 4 C's of Career Counseling in Japan; Addressing Human and/or Citizens right, Career Guidance International Conference, Montpellier, 26, September, 2013.

〔図書〕(計 2 件)

三村隆男(翻訳), 雇用問題研究会, 教師というキャリア, 2013, 200 ページ.
三村隆男, 学文社, 書くことによる生き方の教育の創造: 北方教育の進路指導, キャリア教育からの考察, 2013, 192 ページ.

6. 研究組織

(1)研究代表者

河崎 智恵 (KAWASAKI, Tomoe)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・准教授
研究者番号: 50346300

(2)研究分担者

三村 隆男 (MIMURA, Takao)
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授
研究者番号: 10324021

玉村 公二彦 (TAMAMURA, Kunihiko)
奈良教育大学・教育学部・教授
研究者番号: 00207234

池島 徳大 (IKEJIMA, Tokuhiro)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号: 70346302

小柳 和喜雄(OYANAGI, Wakio)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号: 00225591

松川 利広 (MATSUKAWA, Toshihiro)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号: 10190430

宮下 俊也 (MIYASHITA, Toshiya)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号: 50314521

山本 吉延 (YAMAMOTO, Yoshinobu)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号: 20613714

吉田 誠 (YOSHIDA, Makoto)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号: 40314520

吉村 雅仁 (YOHIMURA, Masahito)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・教授
研究者番号: 20201064

粕谷 貴志 (KASUYA, Takashi)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・准教授
研究者番号: 10405079

中井 隆司 (NAKAI, Takashi)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・准教授
研究者番号: 90237199

前田 康二 (MAEDA, Koji)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・准教授
研究者番号: 60737419

北川 剛司 (KITAGAWA, Takeshi)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・講師
研究者番号: 80710441

樋口 幸三 (HIGUCHI, Takazo)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・准教授
研究者番号: 70712628

松井 秀史 (NATSUI, Hidefumi)
奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・准教授
研究者番号: 90452515